

地理歴史科（地理総合）学習指導案

日 時 令和5年2月7日(火)
対 象 第1学年

1 単元名

第2章 生活文化の多様性と国際理解 第2節 産業の発展と生活文化
教科書 「わたしたちの地理総合 世界から日本へ」（山川出版社）
地図帳 「標準高等地図」（帝国書院）

2 単元の目標

- ・人々の生活文化が自然環境や社会環境に影響を受けたり、与えたりすることを地図や統計資料などから考察し、理解を深める。
- ・前單元までの既習事項や中学校の既習事項を産業の変化に関連させて理解を深める。
- ・身近な産業への理解を深めることで、日々の生活で疑問を持ったり、主題を発見したりできるように生徒の興味関心を引き立てる。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①人々の生活文化が自然環境や社会環境に影響を受けたり、与えたりすることを理解している。 ②国内の産業構造の変化を通して世界の国々の産業構造の変化を理解している。	①統計資料から産業の変化やそれに伴う生活文化の変化について考察している。 ②地図や統計資料から考察した内容を自身の文章で表現している。	①産業や生活文化について、統計資料等から考察した内容を日常生活に当てはめ、自身の生活に生かそうとしている。

4 指導観

(1) 単元観

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編 第2章 第1節 2 内容とその取扱いにおいて、本単元の内容が以下のように示されている。

B 国際理解と国際協力 (1) 生活文化の多様性と国際理解

ア (ア) 「世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解すること。」

ア (イ) 「世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解すること。」

イ (ア) 「世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること。」

本単元は、国際理解や国際協力の重要性を認識することが主なねらいである。中学校では日本の諸地域や産業について学習しており、教科書では世界の事例を取り扱うことが多い。しかし、世界の産業構造の変化や生活文化の変化には一部日本の変化と共通する部分があり、生徒にとってより身近な日本を導入として、世界との関連性を考察し、産業構造の変化が与える生活文化の変化への理解を深めたい。

(2) 生徒観

本学級は、積極的に教え合ったり、質問をしたりするなど意欲的に学習する生徒が多い。中学校までの既習事項への理解が深い生徒も少なくない。しかし、生徒間に地理に関する知識等の差があることから、ペアワークを通して既習事項の知識の差を減らし、より授業内容の理解を深めたい。そのため、ペアワークの後に教員から解答を提示する場合もあるが、単元の終わりに生徒自身の言葉でまとめさせることで、思考力・判断力・表現力等を養いたい。

(3) 教材観

本授業では、生徒の身近な生活を例に、産業構造の変化と生活文化の変化への理解を深めたい。そこで、身近な出来事の統計資料や統計地図の読み取りをしながら、日本の産業構造の変化を例にして国際的な産業構造の変化の考察を行い、理解を深めていきたい。以上の理解を深めるために、一人1台端末での課題の提出や動画を活用する。

5 年間指導計画における位置付け

	目標	内容
地図とGISの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の読図などを基に、地図や地理情報システム（GIS）の役割や有用性などについて理解させる。地図やGISを用いて、情報を収集、読み取り、まとめる技能を身に付けさせる。 ・地図やGISについて、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。 ・地図やGISを活用し、社会の課題を主体的に追究、解決しようとする姿勢を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球面上の世界 ・国家の領域と領土問題 ・国内や国家間の結びつき ・日常生活のさまざまな地図
生活文化の多様性と国際理解（本時）	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解させ、人々の生活文化が、自然環境や、社会環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解を深められるようにする。 ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性、変容、国際理解について多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。 ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境と生活文化 ・産業の発展と生活文化 ・言語・宗教と生活文化 ・グローバル化の進展と生活文化
地球的課題と国際協力	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地で見られる環境や食糧問題などを基に、地球的課題の共通点や相互の関連性を理解し、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることを理解する。 ・世界各地で見られる地球的課題について、地域の結びつきや持続可能な社会づくりに着目し、主題を設定したうえで、多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・持続可能な社会と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口・食料問題 ・居住・都市問題 ・資源・エネルギー問題 ・地球環境問題
生活圏の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の生活圏の自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりについて理解させる。 ・地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、「生活圏の地域性を踏まえた防災対策」などの主題を設定し、「自然災害に備えるために、私たちはどのような対策を取るべきか」などを、多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。 ・持続可能な社会と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境と防災 ・持続可能な地域づくり

6 単元(題材)の指導計画と評価計画(全4時間)

時	目標	○ 学習内容 ・ 学習活動	評価規準(評価方法)		
			ア	イ	ウ
第1時	産業の空洞化と国際分業を例にして東南アジアや南アジア諸国の生活文化への考察をし、理解を深める。	○ファストファッションを例に、東南アジア諸国や南アジア諸国の生活文化への考察をし、理解を深める。 ・縫製産業に関する統計資料から産業の空洞化について考察し理解を深め、東南アジア諸国・南アジア諸国の現状理解につなげる。	① (小テスト)	① (定期考査)	
第2時	現在の産業立地について理解した上で、これからの社会ではどのような産業立地が見られるのかを新聞記事から読み取り、産業立地の変化が国際的に起こっていることへの理解を深める。	○生徒になじみ深い企業の工場の立地を取り上げ、産業立地について考察し、新聞記事から国際的に新しい産業立地へ移行していることを理解する。 ・統計資料を読み産業構造の変化について考察し、新聞記事から産業立地の変化についても理解を深める。	② (小テスト)	① (定期考査)	
第3時 (本時)	産業の高度化が与えた影響と第3次産業内の変化について、統計資料や地図等から考察し、理解を深める。	○産業の高度化について世界の国々と比較して理解を深めるとともに、第3次産業内の変化について統計や地図を用いて考察し、理解を深める。 ・統計や地図の考察をペアワークで行い、教員による解答例の提示により理解を深める。	② (定期考査)	① (定期考査)	
第4時	教科書と新聞記事を読み、産業構造の変化について自身の意見をまとめる。	○教科書と新聞記事を読み、個人で課題に取り組み自身の言葉でまとめる。 ・1人一台端末でTeamsを起動し、まとめを入力する。		② (Teams・ワークシート)	① (Teams・ワークシート)

7 指導に当たって

本授業では、生徒の生活に関連する教材を扱う。身近な出来事の意外な事実を取り入れ生徒の興味・関心を引くとともに、ペアワークにより生徒の思考・表現場面を増やす。導入に関して、本時のゴールにつながる話題であり、共感と意外性をもった内容を用意する。

8 本時(全4時間中の第3時)

(1) 本時の目標

- ①産業構造の変化が与えた影響を考察し、理解を深める。
- ②第3次産業の変化が与えた影響を考察し、理解を深める。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・ 学習活動	○指導上の留意点 ・ 配慮事項	評価規準(評価方法)
導入 5分	<始業の挨拶> <出欠確認> ○園芸高校周辺のコンビニエンスストアの位置と数を表した地図からコンビニエンスストアの位置関係について疑問を持つ。 ・スライドの地図を見る。	○机上に不要なものがないか確認する。 ○コンビニエンスストアの数だけでなく位置関係に着目させる。 ○コンビニエンスストアへの配送の特徴について説明し、第3次産業の構造変化についてイメージをさせる。	

<p>展開① 15分</p>	<p>1.日本と海外の国々の産業構造の変化 (1) 三角グラフを読む ○三角グラフの読み方を知る ・スライドとプリントを見て三角グラフの読み方を確認する。 ○三角グラフから読み取れる産業構造の割合と一人当たり GNI からその関連性を読み取る。 ・スライドの一人当たり GNI を参考にして三角グラフから読み取った産業構造の割合との関連性を考察する。 ・＜ペアワーク＞ 三角グラフと一人当たり GNI の関連性について共有する。 ・適宜教員の示した解答例を書き写す。</p> <p>(2) 国際的な移民の傾向性 ○移民は一人当たり GNI の低い国から高い国へ移動する傾向があることを理解する。 ・プリントの表とスライドの一人当たり GNI を参考にしてその関連性を考察する。 ・＜ペアワーク＞ 国際的な移民の傾向性について共有する。</p>	<p>○三角グラフの読み方を説明する。</p> <p>○GNI の意味を復習する。</p> <p>・ペアワークで話せない生徒がいないように机間指導を行う。</p> <p>○移民は経済的事情だけでなく、政治的理由や宗教的理由などがあることを補足する。</p> <p>・ペアワークで話せない生徒がいないように机間指導を行う</p>	<p>・ア-② (定期考査の知識・技能の問題)</p>
<p>展開② 25分</p>	<p>2.産業内での変化 (1) 小売業の業態の変化 ○図5の業態別開設年別事業所数の構成比から、百貨店や総合スーパーの割合が減少していることに気づく。 ・図5の業態別開設年別事業所数の構成比から気づくことをプリントに記入する。 ・＜ペアワーク＞ 図5の業態別開設年別事業所数の構成比から気づくことを共有する。 ○図5、6の変化をもたらした要因の1つに時間距離の短縮があることを理解する。 ・スライドを見てプリントに語句を記入する。 ・4分程度の動画を見て時間距離の短縮を視覚的に理解する。 ○モータリゼーションの進展について、都道府県別の自動車保有割合の地図を見て理解を深める。 ・スライドを見てプリントに語句を記入する。 ○時間距離の短縮が国内に与えた問題を考える。 ・プリントに自身の考えを記入する。 ・＜ペアワーク＞ 時間距離の短縮が国内に与えた問題について共有する。</p>	<p>○机間指導をしながら、適宜百貨店や総合スーパーの割合に気が付くようにする。</p> <p>・ペアワークで話せない生徒がいないように机間指導を行う。</p> <p>○時間距離だけでなく、スマートフォンの普及等インターネットの発展も理由の1つであることを補足する。</p> <p>○動画の説明を行い、時間距離の短縮への理解を促す。</p> <p>○時間距離の動画において山間地域などへの交通アクセスが良くないことへ着目するよう適宜指示する。</p>	<p>・イ-① (定期考査の思考力・判断力・表現力等の問題)</p>

まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントに本時の学習内容のまとめを、重要語句を使って記入する。 ・＜ペアワーク＞ 記入した語句を共有する。 ・教員が示した解答例を適宜書き写す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークで話せない生徒がいないように机間指導を行う。 	・イー① (ワークシート)
-----------	---	--	---------------

(3) 板書計画

スライド (別紙)	メモなど ・ GNI…国民総所得
--------------	---------------------

(4) 授業観察の視点

- ・本時の問いは、単元の目標を到達する上で一貫性をもち、適したものであったか。
- ・ペアワークで考察内容を共有し、その後に教員が解答例を提示する方法は生徒の学習へのアクセスのしやすさとする機会を確保するうえで適切であったか。